

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回戸田市環境審議会
開催日時	令和5年11月30日(木) 午前10時00分～午前11時45分
開催場所	本庁舎5階 大会議室A
議 題	(1) 戸田市環境基本計画見直し素案について (2) その他
会議結果	以下議事録のとおり

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	1. 開会 2. 議題（議長：飛田会長） （1）戸田市環境基本計画見直し素案について ① 1・2章について 資料に沿って説明
会長	1・2章の説明事項で何か意見や質問はあるか。
会長	40 ページ「関連する SDGs」に、「1 貧困をなくそう」とあるが、貧困問題は世界では問題となっているものの、戸田市とはあまり関係ないかと思うため、アイコンを削除しても良いのではないか。
事務局	現行の計画策定の際に設定したものではあるが、この度の中見直しで削除を検討したい。
会長	「デコ活」について、あまり浸透していないように感じるため、コラムを作った方がよいかと思う。
副会長	37 ページ 戸田市の「将来像のイラスト」とは、どのようなイラストが入るのか。
事務局	例えば、戸田市の地形のイラストの中に、太陽光パネルが設置された家や電気自動車が走っている様子等をイラストで示したものを考えている。
副会長	太陽光パネルや電気自動車等、どこでも取り組んでいることを載せるだけでなく、戸田市の特徴（水路が多いことや競艇場等）である資源をもっと活かし、戸田市としてどうしたいのかを示していく方がよいかと思う。
事務局	まだ素案の段階であるため、いただいた意見を踏まえて検討したい。
委員	各家庭で発生する枝や葉は焼却ごみの扱いとなるが、堆肥にするなど活用方法を考えてみてはどうか。
事務局	衛生センターの処理能力の問題もあるため、参考に検討したい。
会長	20 ページ「風速」に関する記載があるが、戸田市では風力発電は難しいのか。
副会長	先ほどのスライドに提示された 37 ページの「将来像のイラスト」にも風力発電が描かれていたかと思う。
事務局	風力発電については、ご認識のとおり戸田市内の風速データに鑑みると難しい状況である。なお、素案で提示した風力発電のイラストは、家で使う電力を再エネ由来の電力にしましょう、という意味で載せているものであるが、

	その意図が分かりづらい部分もあるため、一目でそれが分かるよう、修正していきたい。
事務局	②3章について 資料に沿って説明
会長	3章の説明事項で何か意見や質問はあるか。
副会長	35 ページ ZEB、ZEH、ZEH-M は市民の方に広く知れ渡っている用語なのか。
事務局	ZEB はゼブと読みネット・ゼロ・エネルギー・ビルの頭文字を取ったもの、ZEH はゼッチ、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス、ZEH-M はゼッチマンション、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス・マンションである。太陽光などの創エネと外壁等の工夫による省エネにより消費するエネルギーを実質ゼロにすることを目指した建物のことである。この用語に限らず難解な用語については、資料編として用語解説を作成する予定である。
会長	前回の計画を見ても、用語解説はとても丁寧であると感じる。 また、別紙「行動による削減効果掲載内容」の電動車導入による節約とはどういう理由であるのか。
事務局	この資料は国のデコ活の資料で算定された金額をもとに記載している。 単純にガソリンから電気に変えることでの燃料費削減による節約金額を示している。
委員	36 ページ「移動の脱炭素化」及び 37 ページ「自動車からの温室効果ガスの低減」は「移動による脱炭素化」とした方が、分かりやすいかと思う。
事務局	参考に検討したい。
事務局	③4章について 資料に沿って説明
会長	4章の説明事項で何か意見や質問はあるか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・41 ページ「吸収源・オフセット対策」について、森林環境譲与税の活用とあるが、近年では、環境省、経済産業省、農林水産省が実施している認証制度「J-クレジット」の検討が進んでいる。森林環境譲与税は以前から導入されているものであるため、古くからの取組だけでなく、未来に向けて新たな取組を実践していかないと厳しいかと思う。 ・前章 36 ページの「廃棄物を資源として生かす循環型社会の形成」の中に「グリーンインフラ」について記載されているが、38 ページの体系図の中で、資源循環は基本方針 2、グリーンインフラは基本方針 3 に分かれているため、結びつきがないように考える。 ・水素自動車について、なかなか普及が進んでいない現状にある。普及して

	いない理由は水素ステーションがない事である。戸田市には工業地帯が多いため、そのような場所で水素を活用することを検討してはどうか。
事務局	水素ステーションに関しては、全国的にも少ない現状であり、整備が整っていない事が購入を躊躇う理由の一つであると考えます。幸いにも戸田市には水素ステーションがあり、川口市内にも近年水素ステーションができたと聞いている。そのため、燃料電池自動車への補助などについては、引き続き実施していきたい。また、工業地域での水素の活用等については、他自治体の事例等も参考にし、検討していきたい。
会長	「電動車」と「次世代自動車」はどちらの表記が正しいのか。
事務局	基本的には政府実行計画内の表記に揃え、電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車を電動車と記載している。市民の方が分かりやすいよう、用語集やコラム等に詳しく明記したいと思う。
委員	41 ページ「友好・姉妹都市との森林保全」とあるが、最近は森林保全と言いつつ、木を伐採し、太陽光を設置しているところも多い。どちらが環境に良いかよく考えた上で検討してほしい。
事務局	今回美里町との森林保全で調整しているのは、古い木を皆伐し新しい木を植えるという内容であり、新たに植えた木の吸収量を戸田市でオフセットする予定である。
会長	森林保全に関するイベントを「J-クレジット」として活用する方法もある。
事務局	今後検討していきたい。
副会長	植物による CO2 吸収には限界があり、また、ただ吸収するだけでなく、固定しないと意味がない。難しい問題であるが、カーボンネガティブにしていけないと問題は解決しない。例えば、戸田市の緑化を推進し、管理を行う等市の中で循環する仕組みづくりの検討や学校教育の中で新たな取り組みのアイデアを出してもらおう等、ただ政府実行計画の内容を当てはめた施策を実施するだけでなく、戸田市の資源や市民を巻き込んだ独自の施策を考えていくべきではないか。
事務局	今後検討していきたい。
委員	学校教育の現場では、子供たちが環境に関する調査研究を多く行っているが、それを発表する場が不足している。そういった場をもっと作るべきではないか。
事務局	年1回とだ環境フェア内で、そういった発表の場はあるが、もう少し回数を増やしていけるよう検討していきたい。

委員	昔は伐採した枯れ葉や枯れ枝等をストーブに活用していた。そういった昔の取組を取り入れ、資源化を行っていくべきではないか。
副会長	自然の枯れ葉や枯れ枝を活用するには、水分を取り除き乾燥させ、チップ化する必要がある、エネルギーがかかる事は間違いない。しかし、昔の知恵は生かせる部分が多くあるため、出来る事から取り入れていく必要があるかと思う。
会長	49 ページ「30by30」について、「国や県の動向を踏まえながら取組を検討」とあるが、基本施策の項目として挙げるには、検討ではなく推進ではないか。また、戸田市として取り組めることを施策に追加しても良いのではないか。
事務局	意見を踏まえて表現の検討をしたい。
事務局	④5章について 資料に沿って説明
会長	5章の説明事項で何か意見や質問はあるか。
委員	59 ページ「戸田市推奨ごみ袋」とはどういうものか。
事務局	推奨ごみ袋は焼却時に発生する二酸化炭素が2割削減できるものであるが、あくまでも推奨であるため、必ず使わないといけないものではない。
委員	63 ページで地産地消を謳っているが、戸田市には埼玉県産の野菜を買いたくても買える所がないように思う。直売所等の新設はできないのか。
事務局	現時点では難しい現状であるが、直接店舗に埼玉県産の農産物を積極的に仕入れてもらうよう働きかける事については、可能か検討したい。また、以前は戸田市産や姉妹都市の農産物を販売する収穫祭のイベントを催していたが、今年度から無くなってしまったと聞いている。
副会長	61 ページ「公園や緑地の整備において、グリーンインフラを推進する」とあるが、表記を「グリーンインフラを推進して、公園や緑地による気象災害を低減する機能を強化する」に改めた方が良いかと思う。グリーンインフラは、自然、生態系を活かし災害を軽減することが基本となり、多面的な機能を有するものである。一言でグリーンインフラの推進とするのではなく、本来の意味合いを考慮した上で、表記を改めるべきと考える。
事務局	意見を踏まえて検討したい。
委員	64 ページ蕨戸田衛生センターの記載があるが、衛生センターの機能の向上（分別しなくてもCO2排出量が増えない等）を目指すことは難しいのか。
事務局	焼却したエネルギーで発電等を行ってはいるが、古い設備のため、市民の方

	にも分別について協力を頂いている状況である。今後、建替等があった場合は、検討していきたい。
委員	外国の方へのごみ出しの指導はどのように行っているのか。
事務局	外国人へのごみ出しルールの周知については、現在4か国語でパンフレットを作成し、窓口等で配布、周知を行っているが、文化の違い等もあり理解してもらえない事も多い現状である。また、補足として新曽南庁舎内の国際交流協会で、外国の方向けの日本語教室を行っているが、その中で日本のマナーやごみ出しルールを含む日本のマナーの学習を行っている。
副会長	特に外国の方に関しては、リサイクルをすることで何か還元されるなど、メリットがあれば協力してもらえるかと思う。
委員	ごみ収集場の件で、集積場所のネットがかかかっておらず、カラスに荒らされる被害をよく見かける。ネットをかける事の周知を徹底してほしい。
事務局	カラス除けネットについては、自治会で購入し、後日市で助成をしている。ネットがなく困っている等があれば、環境課にご連絡を頂ければ、自治会に依頼する事は出来るかと思う。
委員	タバコのポイ捨てについて、なかなか改善されない状況であるため、対策を考えてほしい。
事務局	市内の3駅については、喫煙所を設けているため、タバコのポイ捨ては減ってきているが、それ以外では路上喫煙やポイ捨てがなかなか改善しない現状である。今後より分煙を進めていけるよう、取り組んでいきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・58 ページ「低炭素都市づくり」とあるが、「脱炭素」に表記を揃えた方が良い。 ・62 ページ「温室効果ガス排出量（削減率）」とあるが、（）は取ってよいのではないか。または、「排出削減」は「排出量の削減」に修正した方が良い。 ・73 ページ「協働で取り組みましょう」「未来につないでいきましょう」とあるが、計画の表記に適した「～ます」の言い回しの方が良いのではないか。
事務局	いただいた指摘を踏まえて検討したい。
事務局	⑤6章について 資料に沿って説明
会長	6章の説明事項で何か意見や質問はあるか。
委員	移動の脱炭素化を進めるには、コミュニティバスや路線バスが更に普及する事が重要と考えるが、それには道路の整備が必要不可欠であると考えている。市内の道路や歩道を見てみると、段差があり、自転車や車いす、ベビーカーが通りづらい道がある。道路の整備も施策に加えてほしい。

	<p>また、下水道の整備について、川を汚さない努力をした場合に補助金を交付する等、目に見えて分かる取組をした方が、市民の意欲に繋がると思う。</p>
事務局	<p>車道や歩道を整備する事は、歩きやすく自転車が乗りやすいまちづくりに繋がりが、最終的には脱炭素化に繋がるため、関係各課とも調整し進めていきたい。コミュニティバスや路線バスについても、来年度関係課において、計画の見直しが予定されているため、市民のニーズをふまえ、整備を進めていきたい。</p>
事務局	<p>72 ページの「下水道整備普及率」が高まれば、川に流れる水質も改善される。また、その下の欄の「浄化槽法定検査実施率」を今回新たに載せている。浄化槽が設置されている家については、法定検査を受けてもらう必要がある。埼玉県が全国的にみて、法定検査実施率が低い中、戸田市は健闘している値であるが、更に実施率を上げていくよう取り組んでいく必要がある。また、浄化槽を廃止して、下水道を整備した場合、3年以内であれば補助金（2万円）の申請ができる。定期的に広報等で周知をしているが、さらに徹底していきたい。</p>
委員	<p>65 ページ食品ロスの削減について、事業者に対して「作りすぎない」という内容も追記してほしい。たくさん作って廃棄している現状がある。</p>
事務局	<p>参考に修正したい。</p>
会長	<p>事業者による食品ロスは、食品廃棄物とするのか判断に迷うところがある。この問題は多岐にわたり、もう少し詳しく明記した方が良い気もする。</p>
副会長	<p>埼玉県は食品ロスという表記である。</p>
会長	<p>この議題については、時間の都合上、割愛したい。計画の表記については、既存の方法でよいかと思う。</p>
事務局	<p>⑥今後のスケジュールについて 事務局より説明</p>
事務局	<p>3. 閉会 次回の開催について 今回は、2月～3月を予定しており、詳細は書面で送付する。</p> <p>以上をもって本日の審議会を終了する。</p>
	<p>以上</p>